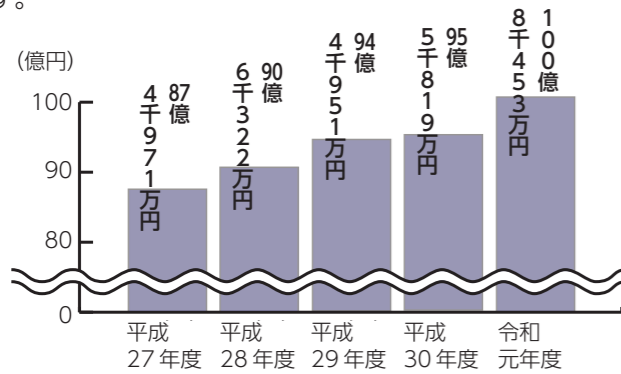


扶助費が年々増加

高齢化の進行で、医療給付費などの扶助費は年々増加しています（下記グラフ）。扶助費は、今後も増加していくことが予想されますが、限られた財源の中で、効率的で持続可能な財政運営に努めていきます。

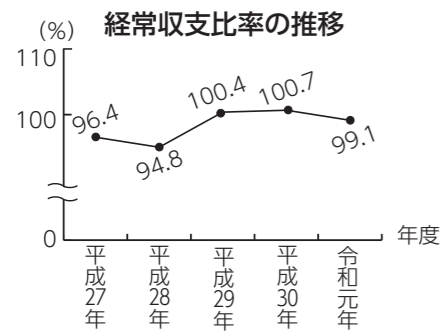


経常収支比率

100%を切り改善傾向

経常収支比率とは、市税などの毎年度決まって入ってくる収入で、毎年度必要とされている経費がどれだけまかなえているかを表したものです。この数値が高いほど、財政が硬直化していることを示します。

令和元年度の経常収支比率は、昨年度の100.7%から99.1%に改善しました。



用語解説

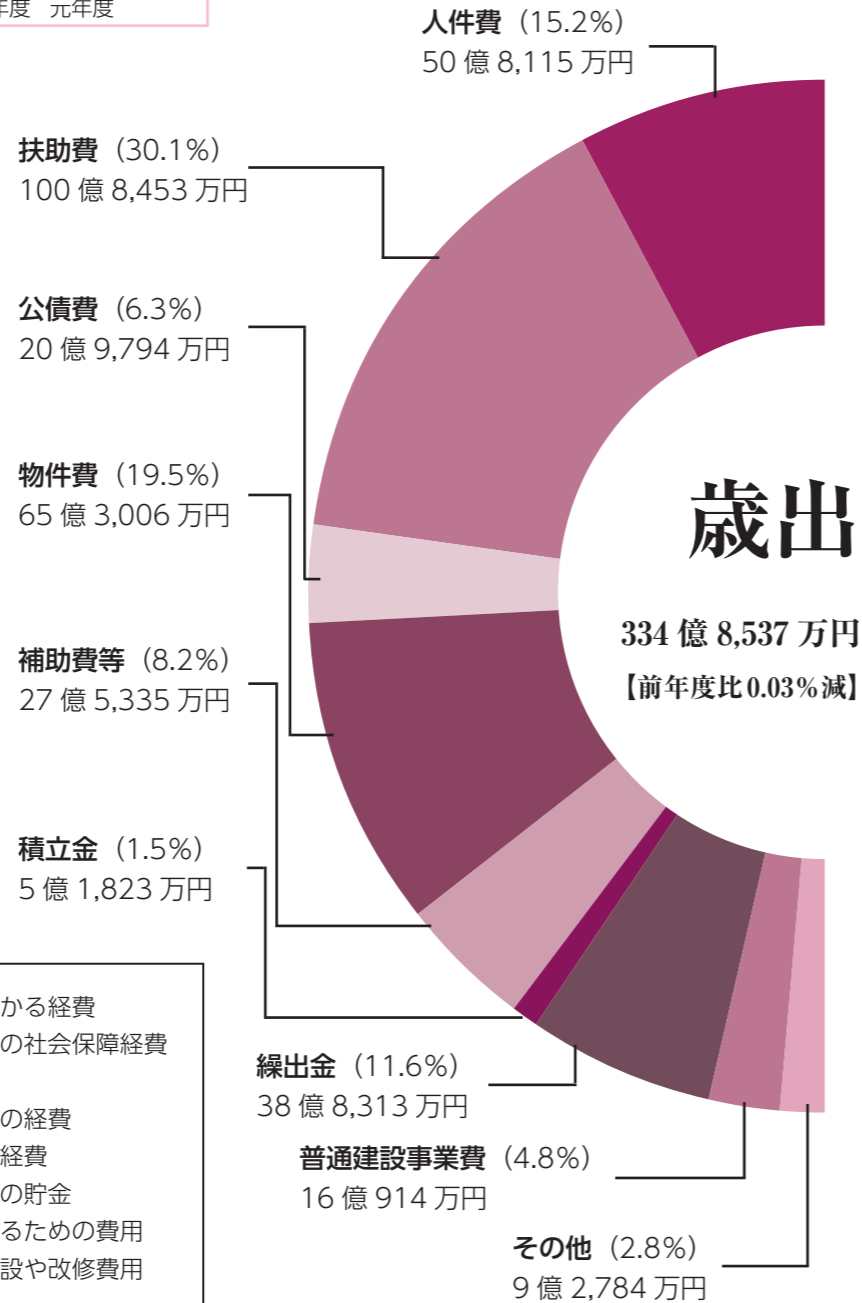
- 人件費**：職員の給与や議員の報酬にかかる経費
- 扶助費**：子どもや高齢者、障害者などの社会保障経費
- 公債費**：市債（借金）の返済金
- 物件費**：消耗品や印刷代、光熱費などの経費
- 補助費等**：団体への助成金や負担金の経費
- 積立金**：財政運営を計画的に行うための貯金
- 繰出金**：特別会計や企業会計を調整するための費用
- 普通建設事業費**：道路や学校などの建設や改修費用

令和元年度 一般会計

歳入 338億4,680万円

歳出 334億8,537万円

一般会計とは、市税などを主な財源として、行政の基本的な経費（例えば、福祉、教育、土木などに要する経費）を経理する会計



令和元年度

決算見込み

令和元年度一般会計・特別会計および企業会計の決算見込みが出ました。みなさんが納めた税金や、国・府からの補助金などがどのように使われたのかをお知らせします。

※決算は市議会で認定後、確定となります。

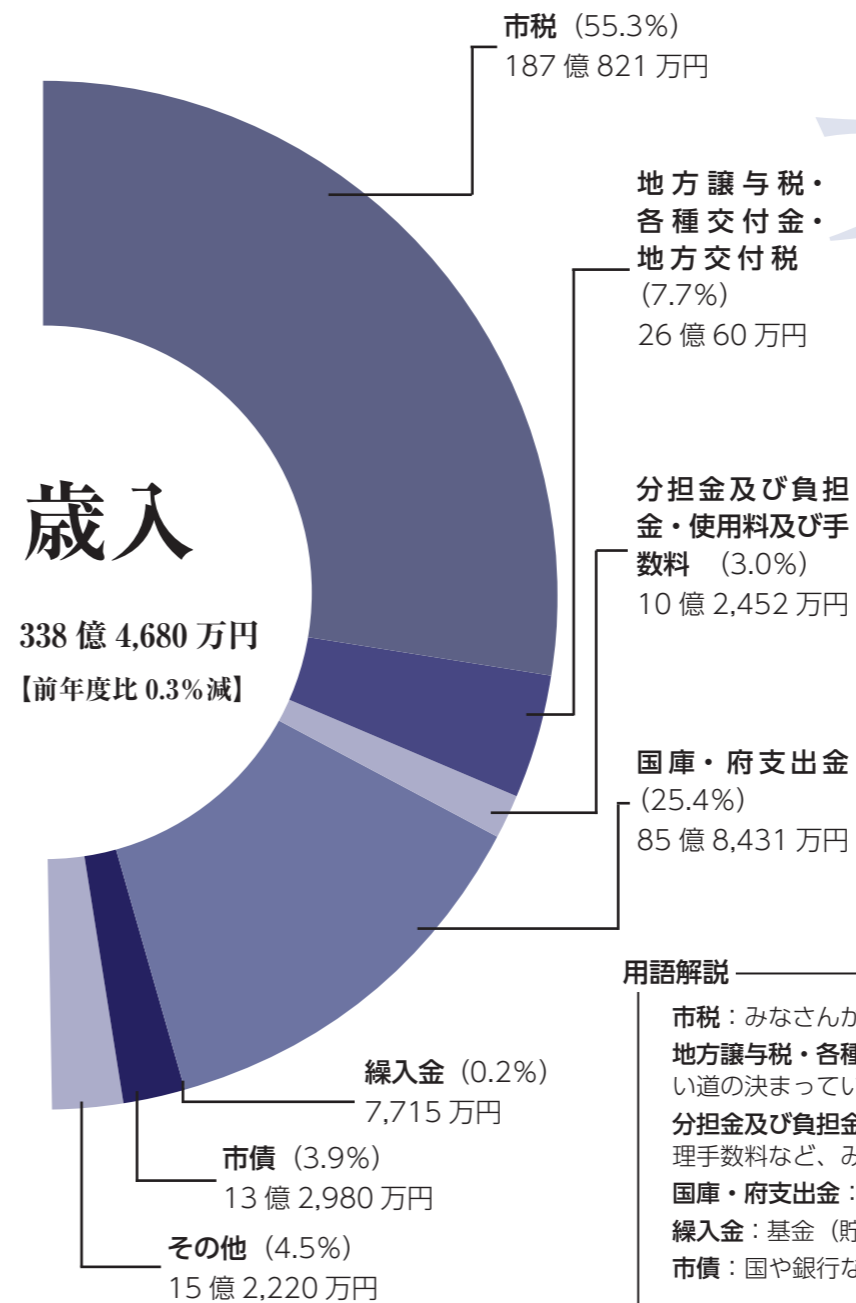
(担当 財政課)

令和元年度 決算概要

実質収支 黒字に

令和元年度の決算額は、歳入338億4,680万円、歳出334億8,537万円です。差し引き3億6,143万円から令和2年度に繰り越した事業の財源1億3,600万円を除くと、実質収支1億9,783万円の「黒字」決算となりました。歳入の55.3%を占める市税は、個人市民税、法人市民税とともに増収、市税収入全体で12.9億1,800万円となりました。

主要基金は、市税収入や普通交付税交付額の増加により、4年ぶりに財政調整基金を取り崩すことなく、昨年度末より約4億8,800万円増の約12.9億1,800万円となりました。



用語解説

- 市税**：みなさんが納めた税金
- 地方譲与税・各種交付金・地方交付税**：国や府からの使い道の決まっていない交付金
- 分担金及び負担金・使用料及び手数料**：保育料やごみ処理手数料など、みなさんが負担したお金
- 国庫・府支出金**：国や府からの使い道が決まった交付金
- 繰入金**：基金（貯金）を取り崩して一般会計に入れたお金
- 市債**：国や銀行などから借りたお金

※端数処理のためずれが生じる場合があります。